

10代、20代の
あなたに知ってほしい

し きゅう けい 子宮頸がんの予防のこと

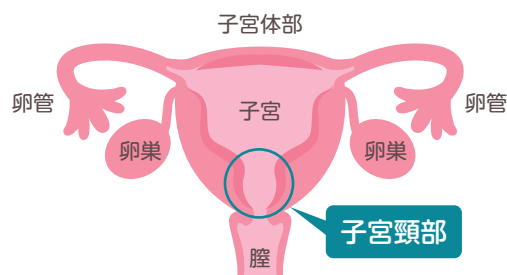
子宮頸がんって、どんな病気なの？

ウイルス感染が原因で、
誰でもなる可能性のあるがんです。

子宮頸がんは、女性の子宮の入り口付近（子宮頸部）にできるがんで、主に性交渉によるHPV（ヒトパピローマウイルス）感染が原因です。

日本では20～40代の女性を中心に毎年約1万人の方が子宮頸がんと診断され、年間約3,000人の方が亡くなっています。また、子宮頸がんの治療では子宮摘出などの手術や放射線治療が必要となり、出産することができなくなる方も少なくありません。

子宮頸がん



子宮頸がんは予防できます

\\ 子宮頸がんを防ぐためにできる2つのこと //

01 HPVワクチンで感染を予防

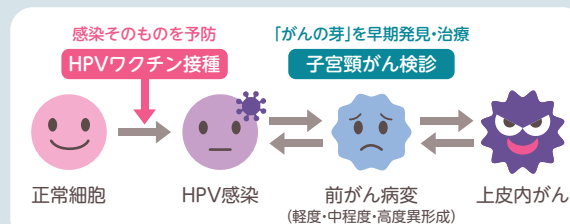
9価ワクチンの接種で、HPV（ヒトパピローマウイルス）の感染を防ぐことで、将来の子宮頸がんを9割以上予防できます。

HPVワクチンは予防に効果がありますが、100%防ぐことはできません。ワクチン接種の有無にかかわらず、定期的な検診が大切です。



02 子宮頸がん検診で早期発見

定期的な検診で、がんになる手前で見つけることができます。しかも検診では「がんになっていないか」だけでなく、「がんになりそうな細胞があるか（前がん病変）」も調べることができます。早期に対処できれば、子宮を失わずに治すこともでき、妊娠・出産も可能です。

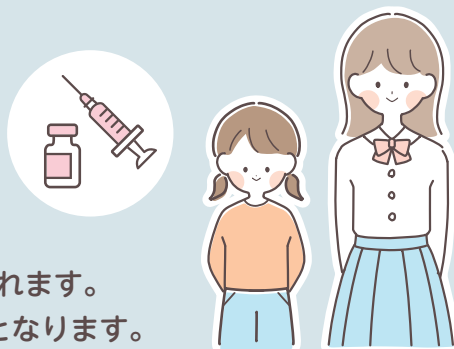


ワクチンで感染予防を

【HPVワクチンの定期接種の対象となる方】

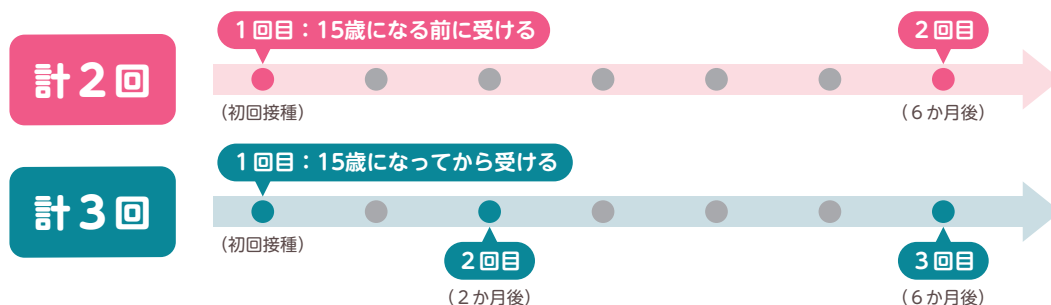
小学校6年生～高校1年生 相当の女子

※対象者は、定期接種として**無料(公費助成)**で受けられます。
対象期間を過ぎた場合は、任意接種（全額自己負担）となります。



【9価ワクチンの標準的な接種スケジュール】

原則として同じワクチンを3回接種しますが、14歳で接種を開始した場合、2回の接種で完了します。



HPVワクチン接種にも**リスク**はあります

接種部位の痛みや腫れなどは80%以上の人に生じるとされます。また、まれに重いアレルギー症状などが起こることがあります。気になる症状が出た時は、すぐに医師に伝えましょう。

検診で早期発見を

20歳になったらワクチンを打っていてもいなくても**検診**を

子宮頸がんは初期では自覚症状がない場合が多い病気です。近年では20～40代の女性がかかることが多くなっています。自覚症状がなくても定期的に検診を受けることが大切です。

職場等でがん検診を受ける機会がない20歳以上の女性は、安城市の子宮頸がん検診を利用できます。

Q1 検査はどんなことをしますか？

A 綿棒やブラシなどを挿入し、子宮頸部の細胞を採取します。検査は、数分で終わります。気になる場合は、女性医師のいる病院を探すのも手です。

Q2 ワクチン接種をしたら、検診は受けなくてもいいですか？

A ワクチン接種では予防できないウイルスもあるため、定期的に検診を受けることが必要です。



【出典：国立がん研究センターがん対策研究所「知ってくださいヒトパピローマウイルス（HPV）と子宮頸がんのこと」
認定NPO法人キャンサーネットジャパン「子宮頸がん予防のこと」】

がん検診の
受診券発行
申込はこちら



ワクチンも検診も
市内医療機関で
受けることができます



ヒトパピローマウイルス
感染症予防接種



安城市がん検診